

典型的な禅寺の枯山水だ。龍安寺と共に枯山水庭園の双璧である。1509年古岳宗亘（こがくそうこう）禅師が作ったといわれる。師は禅の悟りを分かりやすくするために、狭い場所に禅の庭を作った。しかしその後阿波の緑石などが寄贈され豪華に石が組まれている。観音石、不動石、龍門瀑、石橋、鶴亀蓬菜、舟石、坐禅石、沈香石、叡山石などあらゆる要素を含んだ盛りだくさんの庭となっている。

枯山水庭園と一口で言っても、抽象性の度合いが高い順に以下に示す。

- ・龍安寺・東海庵：白砂に石を配置しただけの抽象的な庭。具象的、象徴的な風景を表わしていない。
- ・大仙院：北東の隅にある築山に枯滝から滝が落ち、やがて大河になるさまを水墨画のような手法で具象化している。山水水墨画の具体的なイメージを、石組で象徴的に示している。なお、方丈北東の狭隘な場所に作られた庭は枯山水庭園の原初性を示している。
- ・退蔵院：池泉庭園に近い地割で、水の代わりに白砂が敷いてある、やや具体的な造形。



不動石(左)と観音石(右)、その右側から滝が流れ出し激流になってくんだり、大河となる。石英の筋が入った石が水落石



滝の左側の景



大河を往来する舟



三段の滝と鯉魚石（画面中央の黒みがかった小さな立石）がある事から、龍門瀑の造形と思われる。



当庭はL字型に地割されているが、廊下を曲がったところには、変化にとんだ名石尽くしである。

